

周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド 2023 改訂版の公開に際しまして

周産期メンタルヘルス学会コンセンサスガイド2017の公開された後、精神神経学会の「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド」(2021年4月23日更新)、日本神経精神薬理学会の統合失調症薬物治療ガイドライン(2022年5月20日)などが発出されました。本学会のコンセンサスガイドの向精神薬の使い方と心理的支援についても、2017年以降の知見が多く蓄積されたことを鑑み、薬物療法と心理療法について新知見を踏まえて、2023版として改訂することとなり、2021年10月の本学会理事会の承認を得て、作成作業に着手しました。

(1) 今回の改訂の目的

- ① 向精神薬の使い方(対象CQ7~12)について、最新知見をもとに記載内容を再検討しました。抗精神病薬に関しては、現行の2017版を書き換えなくてはならない知見は得られず、2023改訂版では取り上げないという結論となりました。ただし、抗精神病薬と子供の発達に関する研究結果が出始めていることから、今後の改訂の主要なテーマとなりえます。

気分安定薬に関しては、双極性障害薬物治療ガイドラインでは、『バルプロ酸は使わないことを推奨する』と明記されました。ただし、てんかん診療の専門家からは、「用量を調節しながら使う」という意見もあり、本コンセンサスガイドが、幅広い専門家を対象にしていることを鑑み、引き続き慎重な検討が必要と結論し、気分安定薬についても改訂を見送ることとしました。

抗うつ薬については、2017年以降知見の追加があり、今回の改訂では抗うつ薬の使用方法について、CQ9を差し替える形で改訂版を作成しました。

- ② 心理的支援は、CQ18「妊娠期、産褥期に効果的な精神療法的、カウンセリング的対応は？」に総論的に記載しましたが、国際的には効果が認められている3つの心理療法(認知行動療法、マインドフルネス、対人関係療法)についてそれぞれ独立したCQを設定し、より詳細な内容を記載しました。

CQ21: 認知行動療法、CQ22: マインドフルネス、CQ23: 対人関係療法

(2) コンセンサスガイド改定準備委員会の構成

1) コアメンバー

根本清貴、菊地紗耶、渡邊央美、福本健太郎、南房香、渡邊博幸

2) 作成委員会

A. 薬物療法チーム

飯田仁志(福岡大学医学部 精神医学教室)

伊藤賢伸(順天堂大学医学部附属順天堂医院 メンタルクリニック)

菊地紗耶(東北大学病院 精神科)

清野仁美(兵庫医科大学 精神科神経科学講座)

田久保陽司(済生会横浜市東部病院 精神科)

○根本清貴(筑波大学医学医療系 臨床医学域精神医学)

福本健太郎(岩手医科大学 神経精神科学講座)

渡邊央美(妊娠と薬情報センター)

(五十音順、○リーダー)

B. 心理療法チーム

作成委員名と班構成:(CBT:認知行動療法、IPT:対人関係療法)

第1班	第2班	第3班	第4班	第5班
産前+CBT	産後+CBT	産前+マインド フルネス	産後+マインド フルネス	IPT
○相川 祐里	○南 房香	○雨宮 怜	○榎原 雅代	○宮崎 弘美
小川 道	横山 知加	菅原 大地	稲畑 有規	後藤 美智子
古関 麻衣子	赤尾 綾香	荻島 大凱	吹谷 和代	男澤 聡子
橘 真澄	神山 咲樹			大澤 健太
千葉浩太郎	澤田 恭助			
石垣真由子				○:班長

3) 評価委員会

新井陽子(群馬大学大学院保健学研究科看護学講座)

岡島美朗(自治医科大学附属さいたま医療センター精神科)

笠井靖代(日本赤十字社医療センター産婦人科)

門脇 文子(鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科)

菊地紗耶(東北大学病院精神科)

佐藤昌司(大分県立病院)

鈴木利人(順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院)

須田哲史(国家公務員共済組合連合会 立川病院精神科)

清野仁美(兵庫医科大学精神科神経科学講座)

田口寿子(神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター)
竹内崇(東京医科歯科大学医学部附属病院精神科)
玉木敦子(神戸女子大学看護学部)
西郡秀和(福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター)
根本清貴(筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学)
春名めぐみ(東京大学大学院医学系研究科母性看護学・助産学分野)
牧野真太郎(順天堂大学医学部附属病院浦安病院 産婦人科)
渡邊博幸(千葉大学社会精神保健教育研究センター／特定医療法人学而会木村病院)

4) 監修委員

心理療法 CQ の作成に当たり、それぞれの心理療法に精通した有識者を監修委員として、それぞれの CQ ごとに 1 名ずつ依頼し、それぞれの心理療法全体の解説や知見の意義、臨床への実装性について意見をいただきました。

CQ21 認知行動療法: 中川敦夫(聖マリアンナ医科大学医学部神経精神科学)

CQ22 マインドフルネス: 富田拓郎(中央大学文学部)

CQ23 対人関係療法: 利重裕子(名古屋市立大学 精神・認知・行動医学分野)

ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

(3) 2023 版の作成・公開の経緯

1) 文献検索・推奨文の作成方法について

作成委員会では、薬物療法チーム、心理療法チーム(認知行動療法班、マインドフルネス班、対人関係療法班)に分かれて、文献検索と推奨文の作成を行いました。

文献検索については、2017 版作成時以降(主に 2016 年以降公開された論文)の無作為比較試験を収集し担当各班でレビューし、オンラインでの会議を経て文章案を作成しました。推奨のグレードについては、2017 版の方法を踏襲しました。当学会の特徴は母子保健・精神保健領域などの多様な職種からなることであり、2017 版の巻頭言であるように、『本コンセンサスガイドは、精神科医、産婦人科医、小児科医、臨床心理士、看護師、助産師、保健師、ソーシャルワーカー、薬剤師、社会福祉関係者、母親とその家族に参与する関係者に対して、関心が高いものとなるであろう』という理念を引き継ぎ、「多職種」にとって理解しやすい、また実践可能な内容をこころがけました。

2) ドラフト版のピアレビュー

2023 年2月にドラフト版をまとめ、同年4月に評価委員会と監修委員がドラフトのピアレビューを行いました。評価委員・監修委員からのレビュー結果をまとめ、再度、作成委員会の各担当班でドラフトの加筆修正し、パブコメ公開版をつくりました。

3)パブリックコメント

評価委員会により、パブコメ公開版の承認を受け、日本周産期メンタルヘルス学会学会員向けに、2023 年 9 月 27 日～同年 10 月 4 日の 1 週間のパブリックコメント期間を設けコメントを募りました。

4)公開版

パブリックコメントでのご意見を作成委員会コアメンバーで検討し、ドラフト版の少修正を行い公開版とし、日本周産期メンタルヘルス学会 HP に公開しました。

(4)本コンセンサスガイド 2023 改訂版の利用に際して

周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド 2023は、同コンセンサスガイド 2017 の追補改訂版となっています。抗うつ薬の項目については、2017 版 CQ9 を置き換えるものとしてご活用ください。

また、3つの心理療法の CQ については、2017 版 CQ18 を総論としたときの各論に当たるとご理解ください。

2023 版の利用につきましては、“「周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド2017」の利用にあたり”の記載内容(1. ～4.)に準拠します。とくに、3. 責任の帰属、4. コンセンサスガイドの限界と個々の治療の優先 の内容をご確認、ご参照のほど、お願い申し上げます。